

2013年10月2日

岡倉天心生誕150年・没後100年記念

生誕140年記念 下村観山展

Commemorating the 150th anniversary of Okakura Tenshin's birth and 100th anniversary of his death
 Commemorating the 140th anniversary of Shimomura Kanzan's birth
SHIMOMURA KANZAN RETROSPECTIVE

2013年12月7日(土) – 2014年2月11日(火・祝)

前期 2013年12月7日(土)～2014年1月8日(水)

後期 2014年1月10日(金)～2014年2月11日(火・祝)

※会期中、前後期展示替えのほか、展示期間限定の作品があります。

横浜美術館

日本歴代屈指の筆技を觀よ

下村観山しもむら かんざん [明治6年(1873)～昭和5年(1930)]は、紀州徳川家に代々仕える能楽師の家に生まれました。幼い頃から狩野芳崖かのうほうがいや橋本雅邦はしもと が ほうに師事して狩野派の描法を身につけ、明治22年(1889)に東京美術学校に第1期生として入学し、同期の横山大観ひしだしゅんそうや1年後輩の菱田春草おかくらてんしんとともに、校長の岡倉天心の薫陶を受けました。卒業後は同校の助教授となりますが、天心を排斥する美術学校騒動を機に辞職、日本美術院の創立に参画し、その後は日本美術院を代表する画家の一人として、新しい絵画の創造に力を尽くしたことで知られます。大正2年(1913)には実業家・原三溪はらさんけいの招きにより、横浜の本牧ついで すみかに終の棲家を構えた、横浜ゆかりの画家でもあります。

狩野派の厳格な様式に基礎を置きながら、やまと絵の流麗な線描と色彩を熱心に研究し、さらにイギリス留学および欧州巡見による西洋画研究の成果を加味し、気品ある独自の穏やかな画風を確立した観山。本展では生誕140年を記念し、十代の狩野派修行期から、円熟した画技を示した再興日本美術院時代まで、代表作を含む約120点(会期中展示替えあり)により、画業の全容をご紹介します。



《小倉山》明治42年(1909) 絹本着色、六曲屏風一双 各157.0×333.5cm 横浜美術館蔵 通期展示

平安時代中期の公卿・政治家であった藤原忠平が、『百人一首』に撰せられた和歌「をぐら山峰のみみぢ葉心あらば今ひとたびのみゆき待たなむ」(小倉山の紅葉よ、もし心があるならば、今一度行幸があるまで散らずに待っていてほしい)の歌想を得る様が描かれる。「彫り塗り」「付け立て」「垂らしこみ」といったやまと絵の技巧が駆使され、琳派風の鮮やかな意匠性が目を引く。

【第1章】狩野派の修行

下村観山（本名：晴三郎）の絵画修業は、明治15年、9歳の頃に始まりました。前年に一家で和歌山から東京に移住した観山は、祖父の友人の藤原常興に絵の手ほどきを受けるようになります。そして常興は観山を、最後の狩野派の絵師にして最初の「日本画家」といわれた狩野芳崖に託しました。芳崖は観山の画才を認め、「北心齋東秀」の号を与えたとされます。さらに明治19年、芳崖は同門の盟友・橋本雅邦に観山を紹介し、師事させます。この年、お雇い外国人教師として来日し、日本美術の研究につとめたアーネスト・フェノロサらが主宰する「鑑画会」に作品を出品すると、



左) 《騎虎鐘馗》明治17年(1884) 紙本着色、軸 59.0×38.5cm 横浜美術館蔵 通期展示予定



右) 《鷹之図》明治19年(1886) 紙本墨画、軸 66.0×50.0cm 永青文庫蔵 展示期間：2014/1/10-2/11予定

「下村晴三郎氏は年齢十三歳、橋本氏の門弟なるが、その揮毫の雪景の山水は恰も老練家の筆に成りたるが如く、実に後世恐るべしとて、見る人の舌を振へり」との新聞評を得て、その才能は早くも話題を呼びました。ここでは、「北心齋」時代の観山の研鑽のさまを伝える初期の作品や画稿を紹介します。

【第2章】東京美術学校から初期日本美術院

明治22年、東京美術学校（以下「美校」）が開校すると、観山は、横山大観らとともに第1期生として入学し、翌年2代目校長として着任した岡倉天心の薫陶を受けることとなりました。「観山」の画号は、美校入学の頃に使い始めたとされています。美校では、再び狩野派の筆法の修練から始めることとなりましたが、すでに一かどの画家であった観山は、やまと絵の線や色彩の研究にも大いに励み、調和を重んじた穏やかな色彩と卓抜した線描による、独自の画風を作り出していました。明治27年に卒業するとただちに助教授に抜擢され、後進の指導に当たりながら、自身も作画に励みました。明治29年、天心が「日本絵画協会」を組織すると、観山は大観や1年後輩の菱田春草とともに美校卒業組として加わり、めざましい活躍を示しました。本章の前半では、美校時代の課題制作や校内競技会の出品作をはじめ、卒業制作の《熊野観花》、さらに助教授時代に日本絵画協会第1回絵画共進会に出品した《仏誕》などを紹介します。



《仏誕》明治29年(1896) 絹本着色、額 203.0×143.5cm 東京藝術大学大学美術館蔵 展示期間：2014/1/15-2/11予定

左) 《辻説法》明治25年(1892) 紙本着色、額 44.7×62.8cm 横浜美術館蔵 通期展示予定

右) 《熊野観花》明治27年(1894) 絹本着色、額 61.3×119.7cm 東京藝術大学大学美術館蔵 展示期間：2014/1/15-2/11予定



明治31年、美校内部の確執に端を発し、天心は校長の職を追われることとなりました。観山は天心に殉じて、大観や春草ら他の教職員とともに美校を去り、天心や、同志とともに、「日本美術院」を設立しました。観山は、日本美術院が日本絵画協会との連合展として開催した第1回日本美術院展に、釈迦が茶毘に付される場面を描いた《闇維》を出品しました。《闇維》は、大観の《屈原》とともに最高賞である銀賞を受賞し、フェノロサはこれを「外国と日本との古格を離れ、無限の力と創意とをもっていまだ抵触されたるなき画題を捉えた傑作」と評して、新しい日本画の萌芽を絶賛しました。初期の日本美術院では、空気や光線などを表すため、輪郭線を用いずにぼかしを伴う色面描写を用いた「朦朧体」が試行され、美術界に賛否両論を巻き起こしました。その中において観山は、《元禄美人図》のような古典的な傾向と、《春日野》のように朦朧体に拠った傾向に同時に取り組み、堅実な歩みを進めました。



左)《闇維》明治31年(1898) 絹本着色、額 143.7×256.0cm 横浜美術館蔵 通期展示予定
右)《元禄美人図(三味線図)》明治32年(1899) 紙本着色、二曲屏風一双の右隻 154.3×174.4cm 石水博物館蔵 通期展示予定



《春日野》明治33年(1900)
絹本着色、軸 162.0×114.0cm 横浜美術館蔵 通期展示予定

春日野は、現在の奈良公園一帯の台地の名称。その中にある春日大社の境内は神鹿が群れ、山中に藤が自生することで昔からその名を知られる。この作品では、松葉と藤の花房のもとに憩う3頭の鹿が描かれる。観山は、当時、横山大観や菱田春草とともに、没線主彩描法/朦朧体に取り組んでおり、ここでもその技法を基本としつつ、鹿の毛並みや松葉、芝の描写には、細やかな線描を駆使している。

[第3章] ヨーロッパ留学と文展

明治34年、観山は美校に教授として復帰しました。その2年後、文部省の命により英国に渡り、色彩の研究を第一の目的として、西洋画の研究や模写を行いました。大英博物館にある模写を写したとされる《椅子の聖母》や、英国留学のあと欧州を巡遊した際にウフィーツィ美術館で写したものと思われる《まひわの聖母》といったラファエロの模写は、板に油彩で描かれた原画の柔らかな明暗を、水彩によって見事に絹に写し、観山の技術の確かさを示しています。

一方、日本美術院の活動は次第に停滞し、明治36年をもって経済的に立ちゆかなくなり、観山の帰国翌年の明治39年には、天心の別荘のあった茨城県の五浦に拠点を移すこととなりました。観山は、大観、春草、木村武山とともに、一家を伴って五浦に移住しました。明治40年、文部省美術展覧会(文展)が設立されると、審査員として《木の間の秋》を出品、五浦の雑木林に取材したという、同作の確かな自然描写と琳派を思わせる装飾性は、高い評価を得ました。また、文展の開催に伴って、新派の「国画玉成会」が天心を会長として設立されると、明治41年の第1回展に《大原御幸》を、翌年の研究会展に《小倉山》を出品し、古典研究の成果を余すところなく発揮しました。



《ラファエロ作「椅子の聖母」(模写)》明治37年(1904)
絹本着色、額 56.0×54.5cm 横浜美術館蔵 通期展示予定



《木の間の秋》明治40年(1907) 紙本着色、二曲屏風一双 各169.5×170.0cm
東京国立近代美術館蔵 展示期間:2014/1/10-2/11予定

【第4章】再興日本美術院



《白狐》大正3年(1914)
紙本着色、二曲屏風一双
各186.8×208.4cm
東京国立博物館蔵
TMN Image Archives
展示期間：2013/12/7-12/20 予定

大正2年の末、観山は天心を通じて知遇を得た実業家・原三溪の招きにより、横浜本牧の和田山に新邸を設け、家族とともに移りました。以降、三溪の支援のもとで制作をするようになり、二人の交流は観山が亡くなるまで続きました。この年、ポストン美術館の収集活動を託されていた天心が、健康状態の悪化により帰国し、療養中の赤倉の山荘で亡くなりました。天心の臨終に際し、観山と大観は、有名無実化していた日本美術院の再興をはかります。観山は文展審査員を辞して、在野を貫く決意を示しました。再興日本美術院の創立同人には、他に木村武山、安田靉彦、今村紫紅、そして洋画家のやすだ ゆきひこ 小杉未醒（放菴）がいました。翌年、天心の一周忌を期して開院式が行われ、第1回再興院展が開催されました。観山は《白狐》（第1回展）、《弱法師》（第2回展）、《春雨》（第3回展）といった大作で、茫漠とした空間を特徴とする高い精神性に満ちた画面を構成し、自己の芸術の頂点を極めました。



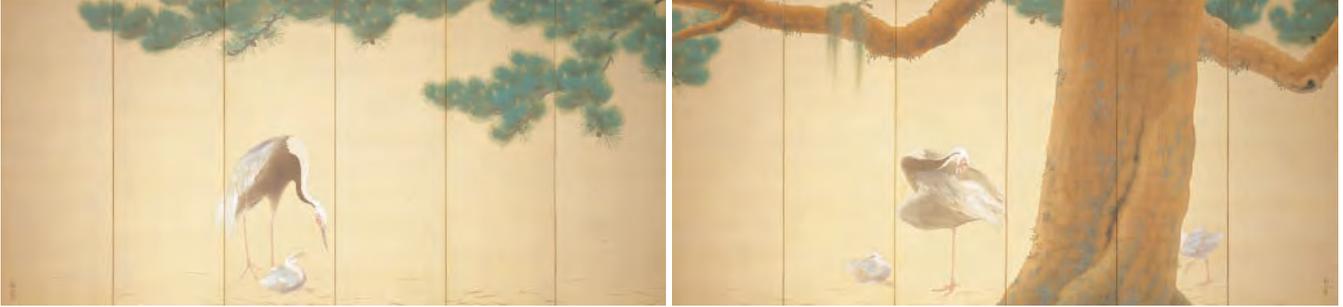
左) 《すいりやく 醉李白》大正7年(1918) 絹本着色、軸 151.0×69.0cm 北野美術館蔵 通期展示予定
右) 《ぎょくわんおん 魚籃観音》昭和3年(1928) 絹本着色、軸(三幅対) 中幅158.0×55.7cm 左右各158.5×32.3cm 西中山 妙福寺蔵 通期展示予定

魚籃観音は、観音菩薩が三十三の姿に変化するうちのの一つとして、古来仏画の主題として多く描かれた。深い朱色の衣を身に着け、鯉の背に乗る姿か、鯉の魚籠を揚げた姿で通常描かれる。ここでは、三人の男と犬を周到に配した三幅対に仕立てている。留学中に模写したレオナルド・ダ・ヴィンチの《モナ・リザ》の相貌を下敷きとする魚籃観音の顔が、発表当時賛否を問われた作品である。



《弱法師》大正4年(1915) 絹本金地着色、六曲屏風一双 各187.5×407.0cm 東京国立博物館蔵 TMN Image Archives 展示期間：2013/12/7-12/20 予定

謡曲『弱法師』を主題にする。偽りの告げ口により父左衛門尉通俊にすてられ、盲目となって諸国を巡る俊徳丸は、人々から弱法師と呼ばれた。この作品では、旧暦如月時正の日（彼岸の中日）、摂津の四天王寺で、父と再会する機縁となった日想観（沈む太陽を拝し、極楽浄土を親観すること）を行う俊徳丸の姿が描かれる。



《松二鶴》昭和2年(1927) 絹本着色、六曲屏風一双 各177.5×375.0cm 横浜美術館蔵 展示期間：2013/12/21-2014/2/11予定

老いた赤松の大木のもとに、真鶴二羽とその幼鳥三羽が憩う様が描かれている。齢千年に達するという鶴は、様々な伝説や故事を持つ松の古木に配されて古くから描かれ、「一品大夫」(一品が鶴を、大夫が松を意味する)という画題でも親しまれてきた。観山は、画面に幼鳥と松笠(松の実)を描き加えることによって、長寿とともに子孫繁栄を寓意する吉祥図に仕立てている。

展覧会の見どころ

1. 日本歴代屈指の筆技

近代日本画界屈指の筆技で知られる観山。横浜美術館では、開館当初から観山作品の収集に努め、現在は画稿を含む270点を所蔵しています。本展では、当館所蔵および個人などから出品される観山の代表的作品とともに、画家の創作の過程を理解する手立てともなる素描や下絵にもご注目ください。

2. 観山展の決定版

本展では《白狐》、《木の中の秋》、《弱法師》をはじめ、観山の画業を代表する作品がご覧いただけます。画家の終の棲家となったゆかりの地・横浜で開催される、観山展の決定版ともいえる展覧会です。

関連イベント

1. 記念講演会「下村観山の見どころ」

講師：木下長宏氏(美術史家)
日時：2014年1月11日(土)14:00～15:30(13:30開場)
会場：レクチャーホール(定員240名)
※入場無料
※当日12:00より、総合案内にて整理券を配布します

2. 学芸員によるギャラリートーク

日時：2013年12月20日(金)、2014年1月31日(金)
いずれも15:00～15:30
※参加無料(当日有効の本展観覧券が必要です)
※申込不要

3. 夜の美術館でアートクルーズ

閉館後に担当学芸員の解説つきで、展覧会をゆったり鑑賞できる人気のプログラム。

日時：①2013年12月18日(水)、②2014年1月25日(土)
いずれも19:00～20:45
定員：18歳以上、各回30名
参加費：3,000円 ※事前申込、抽選
申込方法：当館ホームページ、本展関連イベントの「申込フォーム」
(①は2013年11月15日、②は2013年12月24日、いずれも必着締切)

4. 創作&鑑賞ワークショップ

「日本画を体感する一下村観山の世界」

現在活躍中の日本画家を講師に迎え、技法と解釈の両面から出品作の見どころを紹介します。

講師：藤井聡子氏(日本画家)
日時：2013年12月15日(日)10:30～15:30(昼休含)
定員：12歳以上、16名
参加費：3,800円(他日使用可能な観覧券付)
※事前申込、抽選(2013年11月25日、必着締切)
申込方法：当館ホームページ、本展関連イベントの「申込フォーム」、または、往復はがき(詳細はホームページでご確認ください)

5. わくわく1日鑑賞講座

「下村観山の《小倉山》をみよう」

日時：2014年1月13日(月・祝)10:00～12:00
定員：小学校1～6年生と保護者、20組
参加費：親子2名で1,000円(おひとり様追加で+500円)
※事前申込、抽選(2014年1月6日、必着締切)
申込方法：往復はがき(詳細はホームページにてご確認ください)

6. クラシック・ヨコハマ2013連携

ミュージアムコンサート

11～12月にかけて横浜市内各所で展開する“クラシック・ヨコハマ2013”と連携し、「下村観山展」と岡倉天心にちなんだプログラムでコンサートを開催します。

このコンサートは横浜みなとみらいホールと連携し、同ホールの「コンサートを作ろう!」プログラムの参加者有志によって制作・運営が行われます。

※詳細は後日ホームページで発表

お得な情報

○先售前売りペア券

1人用入場券2枚セットを1,800円で販売いたします。会期中展示替えがありますので、お1人様2回のご来場にもご活用いただけます。

販売期間：2013年9月13日(金)～10月3日(木)

○ドリンクセット鑑賞券

横浜美術館内Café小倉山の450円までのソフトドリンク引換券付鑑賞券を1,300円で販売します。横浜美術館所蔵品のなかでも人気を誇る、観山の《小倉山》の名を冠したカフェで、おくつろぎください。

販売期間：2013年10月4日(金)～12月6日(金)

○「横山大観展」鑑賞割引

横浜美術館で2013年10月5日(土)～11月24日(日)に開催の「横山大観展―良き師、良き友」の有料チケットをご提示いただくと、「下村観山展」の前売券は300円割引、当日券は200円割引となります。(他の割引との併用はできません。横浜美術館のみ取扱い)

○おやこの鑑賞優待

小学生以下の子どもと保護者の方が一緒に鑑賞すると、子ども1人に対し保護者1人が一般当日料金の半額でご鑑賞いただけます。

優待日：2014年1月11日(土)、12日(日)、13日(月・祝)

○三溪園「今村紫紅展」相互割引

三溪園内・三溪記念館で、2013年11月2日(土)～12月8日(日)に開催される「今村紫紅展―横浜のいろ」展のチケットをご提示いただくと、当日券より100円割引となります。

また、「下村観山展」のチケットを三溪園へお持ちいただくと、11月2日(土)～12月8日(日)は、三溪園・三溪記念館の入園・観覧のセット券が、12月9日(月)～3月9日(日)は三溪園の入園料がそれぞれ100円割引となります。

下村観山、横山大観、今村紫紅とともに、原三溪と交流のあった画家たちです。

○65歳以上は無料! シルバー・アートフェスタ

2013年12月23日(月・祝)にはシルバー・アートフェスタを開催。65歳以上の方は、当日に限り、展覧会を無料でご鑑賞いただけます。(年齢の確認できるものをご提示ください)

観覧料

一般	1,200 (1,000/1,100) 円
大学・高校生	800 (700/700) 円
中学生	400 (300/300) 円

※小学生以下無料

※() 内は前売 / 有料 20名様以上の団体料金 (要事前予約)

※毎週土曜日は、高校生以下無料 (要生徒手帳、学生証)

※障がい者手帳をお持ちの方と介護の方 (1名) は無料

※本展チケットで横浜美術館コレクション展もご覧いただけます

※チケットは、横浜美術館 (前売はミュージアムショップ)、セブン-イレブン店内のマルチコピー機「セブンチケット」(セブンコード: 026-008)、にてお買い求めいただけます (前売は12月6日[金]まで販売)

※リピーター割引: 観覧済みの当館企画展有料チケットをご提示いただくと、団体料金でご覧いただけます

(観覧済み展覧会最終日から1年間、1名様1回限り有効、横山大観展のチケット提示は特別割引)

※その他割引料金については別途、お問合せください

基本情報

岡倉天心生誕150年・没後100年記念 生誕140年記念 下村観山展

Commemorating the 150th anniversary of Okakura Tenshin's birth and 100th anniversary of his death
Commemorating the 140th anniversary of Shimomura Kanzan's birth

SHIMOMURA KANZAN RETROSPECTIVE

2013年12月7日(土) - 2014年2月11日(火・祝)

※会期中、前期・後期の展示替えのほか、展示期間限定の作品がございます。

前期 2013年12月7日(土)～2014年1月8日(水)

後期 2014年1月10日(金)～2014年2月11日(火・祝)

開館時間 10:00～18:00 (入館は17:30まで)

休館日 木曜日、2013年12月29日(日)～2014年1月3日(金)

会場 横浜美術館 (〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1)

TEL: 045-221-0300 FAX: 045-221-0317 <http://www.yaf.or.jp/yama/>

主催: 横浜美術館、朝日新聞社、神奈川新聞社、tvk (テレビ神奈川)

後援: 横浜市、NHK横浜放送局

協力: みなとみらい線、横浜ケーブルビジョン、FMヨコハマ、首都高速道路株式会社

プレスリリースお問い合わせ | 横浜美術館 広報担当 (宮野、藤井、窪田) TEL: 045-221-0319 FAX: 045-221-0317 E-mail: pr-yama@yaf.or.jp